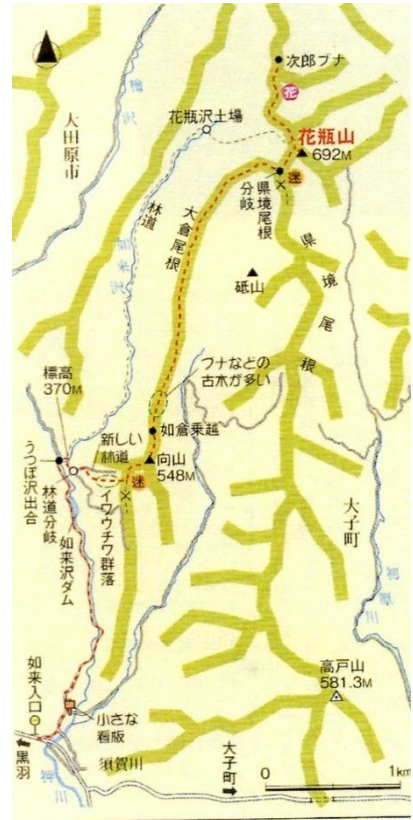


◇◇◇マスターズクラブ山行◇◇◇

マスターズ山行 多気山

日 時：2022年4月18日(月)
場 所：大田原市・茨城県大子町 花瓶山(692m)
参加者：長、菱田、君島、村田、大島(ゲスト初谷圭子)
行動概要：宇都宮マツツク村 2P8:00=ウツボ沢出合P、
君島と合流 9:30~35...向山 10:20...大倉尾根...県
道尾根分岐 11:45...花瓶山 11:50~12:15...花瓶沢
土場 12:30...林道...ウツボ沢出合 P13:15=宇都宮
マツツク村 2P、解散



○当日は午後から雨との予報、集合時には既に雲が低く垂れこめていた。ウツボ沢出合駐車場に行くまでも所々で雨がパラパラと。計画では林道を花瓶土場まで行き、花瓶山(栃木百名山)にまっすぐ登り、大倉尾根を戻る予定だったが、雨が降り出した場合のことを考え、帰り道を歩きやすい林道とする逆回りのコースとした。長リーダーは、一昨日にも同じコースを歩いたとのことで、花瓶山までは行かず、向山あたりまで駐車場近辺を散策することとした。

○登り始めは標高差70mほどの急登で、しんどいが、道端のイワウチワの可憐さに力づけられた。その後勾配は緩み、しばらくして向山(548m)に着く。ここからは、大倉尾根という県境尾根とほぼ平行した尾根を進む。歩きやすい道で、あまり危険な箇所もなく、新しい道標が各所にあるので迷うこともない。道の両側に咲くいろいろな花に時々足を止めさせられた。やがて、尾根は県境尾根と合流し、程なく花瓶山頂に至る。山頂の茨城県側は、直下の植林地が伐採されていて、その向こうの尾根のサクラがきれいだった。サクラを眺めながらの昼食を早々に済ませたが、出発しようとするすると雨が降ってきた。県境尾根をさらに進むと、次郎ブナ、太郎ブナと呼ばれる大木があるとのことだが、雨が降りはじめたこともあって、時間は早いがそこへは行かずに下山することとした。花瓶沢土場へは、急な道を一気に下る。15分ほどで如来沢沿いの林道に出る。幸い雨も強くならず、無事駐車場に戻った。天候は今一つだったが、花瓶山は多くの花に出会えるその名のと通りの山だった。



イワウチワ



トウゴクミツバツツジ



エイザンスミレ



ニリンソウ

マスターズ山行 塩原自然研究路

日時：2022年6月21日(火)～22日(水)

場所：塩原温泉『明賀屋』、塩原自然研究路

参加者：長、君島、村田、大島

行動概要：

○6/21(火)：自由行動、明賀屋集合

○6/22(水)：明賀屋発 8:30＝大沼、発 9:00…須巻富士分岐 10:35…小太郎ヶ淵 11:20

○21日(火)：17:00頃 大島・村田着、夕食までの時間温泉へ。長が着き、君島と4人で夕食。お酒も入り楽しい懇親会になった。



明賀屋にて



須巻富士

○22日(水)：8:30 明賀屋出発。車2台(大島・村田)で、まず小太郎ヶ淵に大島の車を置き、村田の車で大沼へ。大沼 9:00 出発、水芭蕉の群生地(終わってます)を通り、大沼の木道を歩き、春蝉、蛙、鳥の声を聞きながら、写真を撮り、ゆっくり歩く。塩原自然研究路前で休憩をして9:40 発、なだらかな一本路をゆるやかに下り、足元が滑りやすく、注意しながら進み、暑くない日で気持ち良かった。進むにつれ水が豊富に流れていて、上水道の水源もあり、塩原は水が豊かな所と改めて感心した。木々の間を抜け進むと木材伐採をしていて、右側がかなり明るくなっている。10:35 須巻富士分岐。須巻富士へ登り、素晴らしい不動明王立像を拝み、小太郎ヶ淵へ 11:20 着。塩原の自然研究路は昭和33年に整備され、第1号との事!! ハイキングコースとしては手頃で、冬はスノーシューで大沼を歩くことができ、一年を通して楽しめるようだ。

マスターズ山行 龍王峡

日時：2022年11月14日(月)

場所：龍王峡

参加者：長、菱田、村田、大島、(ゲスト鈴木清一)

行動概要：杉並木公園 P8:00＝龍王峡 P＝川治河川運動公園 P9:05…小休止 9:55…川治第二発電所 10:45…むささび橋 12:00…龍王峡 P12:35＝川治河川運動公園 P

○少し風があるものの秋晴れのとても良い天気だ。8:00 杉並木公園駐車場に集合し3台の車(村田、大島、菱田)に2名ずつ乗って出発。まだほとんど車の止められていない龍王峡駐車場に村田車をデポ。2台の車で、川治河川運動公園駐車場へ移動した。○9:05 歩行開始。まず黄金橋を渡り、あじさい公園を通り抜け、今年のこの時期にマスターズクラブで来た南平山登山道入口へ入らずに、直進した。降り積もった落ち葉を踏み、逆光で輝くような紅葉を見ながら歩くのは、とても気持ち良かった。9:35 道が開け集落に出る。左手に小網ダム、対岸のやや高いところに野岩鉄道の川治温泉駅が見える。県道23号川俣温泉川治線を横切って、逆川(さかせがわ)ダムの管理用道路と思われる舗装路を進む。3つあるトンネルの3番目の手前に左手に下りていく歩道があるが通行止めとなっていた。9:55 3番目のトンネルを抜けたところで、小休止。と思ったが、メンバーが持参したケーキや卵焼きなどが振舞われ、25分も休んだ。そこから少し進むと逆川ダムへの道は通行止めとなり、左に浜子橋の方へ下りていく道を進む。浜子橋は、グレーチングでできて

おり、中央部はベニヤ板が張ってあるが、両サイドは足下が透けて見える、ちょっと怖い橋。10:45 川治第二発電所を過ぎ、ここから先がいよいよ龍王峡。白岩半島を過ぎると、かめ穴(河底や河岸の岩石面上にできた円形の穴。甑穴(おうけつ)、ポットホールともいう)、兎はね(ウサギが飛び越えられるくらい川幅が狭い)、五光岩、堀口大學の詩碑などの見どころも多い。ここでまた15分休憩し、今度は饅頭をいただいた。12:00 むささび橋に着いた。この辺りからは、龍王峡駐車場を起点に川の兩岸を周遊できるので、観光客が多かった。ここには、茶屋とトイレがある。橋の上から峡谷を眺めた。川面に落ち葉が浮かんで流れていくのが風情もあり美しかった。虹見橋を渡って左岸に戻り、12:35 龍王峡駐車場に到着。平日だが、朝と違って駐車場は車で一杯だった。ドライバーは村田車で川治河川運動公園駐車場へ車を取りに行き、龍王峡駐車場に戻り、そこで解散した。



マスターズ山行 篠井富屋連峰

日時：2022年12月12日(月)

場所：宇都宮市篠井富屋連峰

参加者：長、菱田、君島、村田、大島(ゲスト鈴木清一)

行動概要：宇都宮市冒険活動センターP8:30…榛名山
9:45…男山 10:10…本山 11:00…センター P12:25

○宇都宮市冒険活動センター入口集合。車2台で上の駐車場まで移動、8:30 出発。せっかくなので子どもの森公園内の吊り橋を渡り、『勇気の洞窟』(中は二股に分かれ、真っ暗な中を進むトンネルで、やはり怖かった)を通り抜け、出口右側に細い道があり、少し小木があり登りづらい登山道へ。なだらかな登りを行くと展望が。晴天の中、篠井の町そして男体山、女峰山が見え、天候に恵まれ、気持の良い山行になりそうでした。暫く林の中を落葉に滑らないよう注意しながら進み、稜線に出、榛名山山頂(9:45)。あまりぱっとしない所で、小さな祠があり、その奥に看板があり524mと。集合 写真を撮るのを忘れ、男山へ。さほど登らず男山山頂(527m、10:10)。横に今登って来た榛名山が見えるが、雑木が多く見晴しは良くない。写真を撮り本山へ。少し戻り稜線を行きながら本山山頂へ(561.5m、11:00)。本山からの展望は、抜けるような青空の下、前面一杯に高原山が広がり圧巻だ。ここは、元旦に日の出が見られる場所で、確かに見晴しは良かった。ここまでのんびりと歩いたためかなり遅れていた。さっそく下山。飯盛山方面へ向かうが、飯盛山へは行かず、冒険活動センターへ戻った。本山からの下りは岩場が少しあり足元に注意したが、後はスギ林の中、木漏れ陽の中、ジブリの森を思わせるような中を下山した(12:25)。師走の登山では、かなり良い山行であった。



マスターズ山行 猪倉山

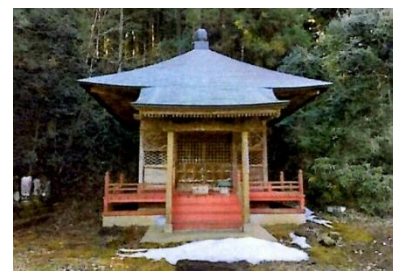
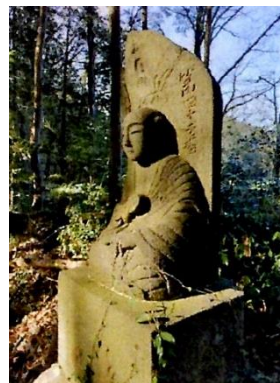
日時：2023年2月20日(月)

場所：日光市猪倉山(観音寺山)

参加者：長、菱田、上田、(ゲスト鈴木清一)

行動概要：泉福寺 P8:30…新四国八十八ヶ所巡り…
猪倉山 9:55…泉福寺 P11:05

○当初の予定は13日だったが、雨予報なので20日に延期して実施。この日は良く晴れたが、冬の気圧配置で気温はあまり上がらなかった。
○8:30 山麓にある泉福寺駐車場(290m)に集合。ラジオ体操で準備をし8:45に出発。泉福寺には四国八十八箇所を模したミニ遍路がある。ここを1番から、弘法大師と思われる(泉福寺が真言宗智山派の寺院であること、金剛杵と数珠を持っていること)像を拝みながら巡る。それぞれがとてもやさしい顔で心が和む。お賽銭用に小銭を88枚用意していくと良い。はじめはゆるやかな道だったが、17番あたりからは山道となる。30分ほどで尾根に出るとすずり石と呼ばれる上面が平らな大きな岩が並んでいる。それまでずっと杉木立の中を登ってきたが、ここからは日光連山が良く見えた。この尾根はすずり石だけでなくちょっとした岩場で、よじ登るようなところもある。45番岩屋寺はまさに岩の中にある。54番まで回ったところでお遍路は中断、頂上を目指した。頂上への道は尾根筋であることや、急な所には階段があったりして、登りやすかった。9:55 頂上(420m)に到着。この山は中世には城があったところで、山頂は平坦で、雷電神社、ベンチなどがあるが、杉に囲まれていて眺望はない。ここで20分ほど休憩したのち、来た道に戻ってお遍路を再開した。10:50 八十八番目の大窪寺(ここと十番切幡寺はお堂がある)をお参りし、「結願」となった。その後、泉福寺の本堂をお参りし、11:05 今回の山行を完了した。超低山ではあったが、新四国八十八ヶ所巡りができて、とても良い山行であった。



マスターズ山行 猪倉山

日時：2023年3月20日(月)

場所：日光市茶臼山

参加者：長、菱田、大島、上田、(ゲスト鈴木清一)

行動概要：杉並木公園 P8:30=倉ヶ崎登山口 8:55…

茶臼山 9:50…テレビ塔 10:15~50…茶臼山 11:20…

倉ヶ崎登山口 11:55=杉並木公園 P

- 先月の山行同様、当初の予定は13日だったが、雨予報であったので20日に延期して実施。この日は良く晴れ、暖かくなった。
- 8:30 杉並木公園駐車場に集合した。ここから、今日歩く予定の茶臼山から毘沙門山までが良く見える。
- 1台の車に乗り合わせて、倉ヶ崎登山口(370m)まで行き、8:55に出発。いきなり階段のある急登。一気に100mほど登って、ややゆるやかな尾根にでる。ほどなくして、見晴台に着く。その名のとおり、西に男体山、女峰山、南に鶏鳴山が良く見晴らせる。ここまでの間、下今市駅の方から、蒸気機関車の汽笛が何度か聞こえた。
- 地理院地図の517m地点には、何の標識もなく、そのまま進むと『茶臼山 517m』の標識がある。葉の落ちた木々の間から周囲の山が見えるが、

見晴台のような眺望はない。小休止し、先月撮り忘れた集合写真を撮って、先に進んだ。10:15 テレビ塔に到着。ここで、当初の予定の毘沙門山まで行くかどうかを協議し、下山後のランチが楽しみということもあって、毘沙門山までは行かずに引き返すことにした。テレビ塔の施設の階段に腰を下ろしてやや長い休憩を取り、持ち寄った菓子や果物を食べた。日差しがとても暖かった。

- 10:50 来た道に戻った。ヒノキが多く植林されていて、そのための作業道が東側の斜面に見えるが、地理院地図に記された道とは一致しない。尾根伝いに進む道は迷うようなところはない。しかし登山口にあったコース図に記された『岩鼻』というところに寄ろうと思っていたのに、すっかり忘れてしまった。下山中に再び蒸気機関車の汽笛が聞こえ、白い蒸気を吐く機関車を見ることができた。
- 11:50 無事登山口に到着し、車で杉並木公園駐車場へ戻った。ちなみに、この茶臼山と行けなかった毘沙門山は、戊辰戦争の時に会津幕府連合軍が地元の猟師100名以上からなる鉄砲隊を配置して、政府軍を悩ませたところとのこと。

毘沙門山

テレビ塔

茶臼山



鶏鳴山



◇◇◇ユース栃木山行◇◇◇

夏山山行

期日：2022年8月3日(木)～5日(土)

場所：八ヶ岳 硫黄岳・赤岳・権現岳

参加者：荒井、林、深谷

行動概要：

○8/3(木)：荒井宅 13:30＝林宅 14:10＝結城市内で深谷と合流 15:00＝圏央道五箇 IC＝中央道小淵沢 IC＝美濃戸口 20:00、八ヶ岳山荘仮眠室にて宿泊

○8/4(金)：美濃戸口 5:30…美濃戸山荘 6:20～30…赤岳鉱泉 8:00～20…硫黄岳 10:00…硫黄岳山荘 10:15～30…地蔵の頭 12:10…赤岳頂上山荘 12:30…赤岳 12:35～50…赤岳頂上山荘 12:55【小屋泊】

○8/5(土)：赤岳頂上山荘 5:15…赤岳 5:20～30…キレット小屋 7:00…権現岳 8:20～40…編笠岳 10:00～20…富士見高原スキー場 12:20

【第1日：8月3日(木)】

○早い梅雨明けで始まった今年の夏だが、7月に入ってからは大気不安定な日が続き、昨年同様天候が心配される山行となった。今回夏山に選んだのは八ヶ岳。赤岳山頂を踏むだけなら日帰りでも可能だが、敢えて権現岳を通過するルートを選んだ。個人的には赤岳頂上山荘の宿泊で、天気次第では日の入り・日の出が見られるのではと楽しみにしている。

○15:00に結城市内にある深谷の職場で三人が合流した後、最寄りの圏央道五箇 IC から高速道路を利用。途中雨に降られる所もあったが渋滞もなく進み、中央自動車道小淵沢 IC で高速を下りる。各高速道路の開通により山へのアクセスはとても便利になったのも有難い。

○道の駅小淵沢で入浴の後、コンビニで夕食・朝食の買い出しを済ませると、登山口である美濃戸口へ向かう。車中泊の予定だったが八ヶ岳山荘の仮眠室がある事を知り、利用する事にする。二階が宿泊室、一階がフリースペースとなっており自炊する事もできる。この日の利用者は我々三人だけで、快適に利用する事ができた。

【第2日：8月4日(金)】

○4:00に起床、一階のフリースペースで各自用意した朝食を済ませパッキングをする。今夜も小屋泊ということで荷物が少ないので準備は楽である。不要な荷物を車に残し、5:30に美濃戸口を出発。天候は今にも降り出しそうな曇り空。林道を歩き始めて間もなくするとやはり雨が降り始め、少し雨足が強まったところで美濃戸山荘に到着。蒸し暑いので嫌だったが雨具を着ることになった。しばらく林道を歩き、堰堤広場を過ぎたところから登山道へ入る。沢沿いを進

むため何度か渡渉を繰り返すが、足場パイプや木道で整備されているため安心して歩くことができる。8:00赤岳鉱泉に到着し休憩をとる。ちらほら登山者は見えるが平日という事も静かである。この頃には雨も上がり雨具を脱いで歩くことができた。

○硫黄岳へのルートは樹林帯の中でやや急登となり、赤岩ノ頭で急に辺りが開ける。さらに10分程で硫黄岳の広い山頂に到着するが辺りはガスで何も見えず、そのまま通過する。広いガレた尾根を下るが、ルート沿いには背丈ほどのケルンがあり迷うことはない。硫黄岳山荘を過ぎるとコマクサのお花畑が広がり、電気柵で高山植物が守られている。見ごろにはやや遅かったようだが、時期が良ければ見事な景色に違いない。

○横岳への登りに入ると梯子・鎖場が続く、岩稜のやせ尾根に出る。稜線上は西側が切れ落ちている所もあり、鎖が手摺状になってはいるが慎重に通過する。2,830mの横岳最高峰のピークには先行の団体パーティが休憩中。ガスもかかり展望もないためそのまま横岳を通過する事にした。地蔵の頭までは梯子や鎖場が続く下りとなるのでスリップに注意して進む。赤岳展望荘を通過するとようやく本日最後の登りとなり、この頃にはガスも抜けて振り返ってみると雲の切れ間から歩いてきた稜線を見ることができた。晴れていたら最高の景色だったかと思うと残念だが、あまり雨に降られずに来られただけでも良かったとしよう。そして12:30、本日の目的地である赤岳頂上山荘に到着。

○まずは目の前の赤岳頂上へ向かう。天候は終始曇りだったが、流れる雲の切れ間から見える山々は幻想的で素晴らしかった。その後山荘へチェックインし早速缶ビールを購入、無事の到着に乾杯した。この日の宿泊客は我々の他1名だけで、昨夜に続き静かで快適な夜となった。残念ながら日の入りを見ることはできなかったが、消灯の20:00になる頃には甲府市内の夜景が見え、晴れマークのない明日の天気予報が外れる事に期待しつつ眠りについた。

【第3日：8月5日(土)】

○4:00に起床。思ったほど寒くはなく、小屋のお布団はとても快適だった。ただ一つコロナ禍ということで、使い捨ての紙製の枕カバーを使用した。動かすたびに「シャカシャカ」と音を立て静寂の邪魔をするので夜中に外してしまった。外を見ると雲の中から富士山がよく見えた。登るのは別としても、どこから見ても富士山とわかるシルエットはやはり素晴らしいと思った。朝

食は小屋にお願いしたお弁当と、お湯を沸かしそれぞれ温かい飲み物をとる。ちなみにお弁当は五目御飯。小屋は私たち以外は一人しか利用がなく広々と使うことができた。

○準備を整え出発。赤岳で少し風景を楽しむ。市街地も近くまた 360 度山に囲まれた八ヶ岳は、人と自然の織りなす風景がとても素晴らしい。昨年と同じメンバーということもあり、遠くに見える北アルプスを眺め、雨の中で登ったジャンダルムを思い出す。

○赤岳を出発すると険しい岩稜帯をキレット小屋まで一気に高度差 400m ほど下る。途中ガレ場もあり落石に気をつける場面もあった。この区間はなかなかの緊張感があり楽しめた。キレット小屋は閉鎖中。ここからは今までと反対に権現岳を目指し高度差 300m ほどを登り返す。とても損した気分だ。しかしこれも山登り……。途中名物の 61 段からなる鉄製の梯子を登る。長いので揺れもありなかなかスリルがある。梯子を上り切り後ろを振り返ると、今まで歩いてきた稜線がきれいに見える。天気も良く、眺望がすばらしい。

○権現岳到着後は編笠山を目指す。途中「遠い飲み屋」として知られる青年小屋がある。星空を見ながらのお酒がおいしいらしい。網笠山はなかなか雄大な姿をしていて素晴らしい。頂上付近は大きな岩がごろごろしており、一体どのように形成された山なんだろうかと思いを巡らす。また古いファンタの瓶が岩の間に落ちており、これまたいつからあるのかと話題になった。

○編笠山からはゴールの富士見高原スキー場を目指す。なかなか長い下りではあるが苔むした樹林帯もあり景色も楽しめる。下山後はタクシーを予約して温泉に入る。なかなか気持ちのいいお湯だった。お風呂を出てタクシー会社に連絡すると、まだ手配できないとのこと、どうやら台数が少ないようだ。ただ運よく予約したおかげで 10 分ほどで来ていただいた。(実は 2 時間待ちも覚悟した) その後車に乗り換え、道の駅で本格的なピザランチを頂き(美味しかった!) 帰宅の途に就いた。今回は珍しく天気にも恵まれよい山行となった。



横岳からの下り



赤岳山頂から阿弥陀岳



赤岳展望荘を過ぎて今日のルートを振り返る



赤岳山頂より



梯子を登る林会員



稜線上の荒井会員



朝の富士山

◇◇◇古道調査◇◇◇

古道調査(第7回)：禅頂行者道

日時：2022年7月17日(日)
場所：鹿沼市～日光市 禅頂行者道(古峰ヶ原・行者岳・地藏岳・夕日岳・薬師岳)
参加者：渡邊(リーダー)、増淵(計画輸送)、林(記録)
行動概要：日光杉並木公園P集合6:30、計画輸送＝古峰ヶ原登山口7:40…古峰ヶ原峠8:22…深山巴の宿8:48…古峰ヶ原峠9:12…行者平9:55…行者岳10:02～22…大岩山10:54…唐梨子山11:29～39…ハガタテ平11:55…地藏岳12:25～37…三ツ目12:49…夕日岳13:05～20…三ツ目13:35…1406mピーク14:00…1365mピーク14:15…薬師岳14:35～46…細尾峠15:07＝日光杉並木公園P、解散

○今市の杉並木公園に6:30集合。増淵委員の計画輸送にお世話になり古峰神社へ向かう。雨予報ということもあり、古峰神社から先の車道は短縮し登山口まで車で向かった。ここで増淵委員と別れ、渡邊支部長と林の2名が山に入る。

○登山口から10分程で「へつり地藏」が現れる。案内板によると、深山巴の宿(じんぜんともえのしゅく)での厳しい修行に耐えられず逃げた修行僧がここで捕らえられ、殺されたのを憐れんで建てられたとのこと。近代的な生活からは想像を絶する修行の過酷さとその時代の厳しさを思うと、これから向かう修験の道の歴史と重みに身が引き締まる思いがする。荒れた旧車道を出たり入ったりショートカットするように登山道を進み、40分ほどで古峰ヶ原峠に出る。ここから深山巴の宿まで片道15分ほどの往復。巴の宿は今では鳥居といくつかの石碑等を残すのみだが、どことなく神秘的な佇まいから往時の様子が偲ばれる。

○古峰ヶ原峠に戻り行者道へ歩みを進める。しばらく旧車道(林道)を進むと地藏堂らしきものがあるが、小さな木造りの祠は屋根板や壁板がバラバラになっており、地藏も見当たらない。盗難にでもあったのだろうか。実は当日、これが首なし地藏かと思っていたが、どうやら別のものである。程なくして旧車道は終わり、大天狗之大神の鳥居をくぐると、いよいよ行者道に入る。こちら側はあまり歩かれていないのか、ところどころ踏み跡が乏しくなるが迷うことは無い。樹林の中の道を30分ほど進むと行者平に着く。まるで管理されているかのようにきれいな平場が広がっている。ここから少しの急登で行者岳山頂に着く。ガイドには展望が利くとあるが、樹林に囲まれているのとガスっているのとで何も見えない。

○小休止したのち出発する。ここからも特徴のない樹林の道が続くが、途中、背後に巨石群を控えた金剛童子の石祠がある。巨石群は尖った大岩を縦に突き刺したように並んでおり、その様相が八竜とも言われている所以だろうか。個人的には、岩の形状が金剛のようにも見えて、それで金剛童子なのかと勝手に思案する。大岩山のピークを越え、鞍部からしばらく登り返すと唐梨子山である。このピークは結構な広さがあり、ピークという感じがしない。当日はこの山名の読み方が分からず、2人とも？マークであったが、下山後ネット検索したところ、「カラリコ」「カラナシ」「ケナシ」など様々。それぞれが別の読みを否定していたりして、何が本当かよく分からない。唯一「カラナシ」だけがそのソース(鹿沼市観光交流課)をはっきり記載しており信頼できそうだが、真相は如何に???

○唐梨子山を後にして少し下ると「竜の宿」という巨石が現れる。岩の割れ目から何本も樹木が伸びており、これを竜に見立てたのか、それとも竜がねぐらにするくらいの大岩ということなのか。いずれにしても神秘的な佇まいであり、いわゆるパワースポットのムードに満ちている。

○さらに下ると広く開けた鞍部に着く。ここがハガタテ平であり、古峰神社へ下る分岐点でもある。ここから地藏岳への登りとなるが、この登りが今日の最大の急登である。笹原の斜面をつづら折りや長いトラバースを経て、南面の尾根に出たのち登り詰めると地藏岳に到着する。山頂近くにはその名の通り、地藏が祀られた石祠がある。天候が崩れた場合はここから戻り、ハガタテ平から古峰神社への下山も想定していたが、幸いここまで一滴も降らず、夕方まで何とか持ちそうなので、予定通り細尾峠まで縦走することにした。ここは携帯電話の電波状態も良く、増淵委員にその旨連絡できてホッとする。

○地藏岳から尾根伝いに15分ほどのひと歩きで夕日岳への分岐の三ツ目に到着する。ここから夕日岳へは片道15分ほどの往復である。夕日岳山頂からは日光連山の展望が良いらしいが、ガスっていて何も見えない。またガイドにはヤシオツツジの群落とあるが、花びらがすこし落ちてくくらいで時期が遅かったようだ。東側の尾根に道が伸びているようなので少し偵察してみたが、すぐ道はなくなる。ただし、きれいな尾根筋が伸びており、ガイドによれば夕日岳新道という道がある(あった)ようだが、今は廃道になっているらしい。

- 小休止後三ツ目に戻り薬師岳を目指す。コグマザサに覆われた足元には明瞭な登山道が続いており、明るい樹林帯と相まって気持ちの良いルートだ。ハガタテより南側とは山の雰囲気も変わってくる。基本的には細かいアップダウンを繰り返す尾根歩きだが、ところどころ現れる急傾斜や痩せ尾根など、飽きがこない。また石祠がいくつも現れ、修験の道であることを改めて思い出される。
- 1365 ピークをトラバースでやり過ごした後、尾根に戻りしばらく行くと不動明王座像と石祠がある。ここが掛合宿らしい。石祠のすぐ後ろには尾根の斜面を切って作ったと思われる平場がある。ここに宿があったのだろう。
- ここからひと登りで薬師の肩を経由し薬師岳山頂に着く。山頂近くにはいくつもの石祠がある。山頂から東側の尾根道を辿れば清滝に下山できるようだが、今日は細尾峠が最終目的地だ。少し薬師の肩の方へ戻ったところに細尾峠への分岐がある。ここから急傾斜の道を 20 分程下ると細尾峠に到着する。
- 細尾峠には増漕委員が車を回して待っていてくれた。今回のような縦走を効率よく行うにはこういうご協力があってこそであり、大変有難いと思う。天気予報から雨中の行動は覚悟のうえであったが、結果的に全く降られずに済み、望外の調査山行となった。逆に今回の行程中、ルート上で他の登山者に一人も会うことがなかったが、これも昨今の確度が高い天気予報の功罪だろうか。



へつりの地藏



深山巴の宿



行者平



金剛童子の石祠



唐梨子山



竜の宿



地藏岳



三ツ目から薬師岳への尾根道



三ツ目から薬師岳への尾根道と石祠



不動明王座像



細尾峠にて

古道調査(第8回)：会津中街道

日時：2022年9月28日(水)
 場所：会津中街道(下郷町観音沼～大峠)
 参加者：渡邊、桑野、増淵、菱田、林、(ゲスト滝田)
 行動概要：下郷町観音沼 P9:00＝四本木沢 P9:50…
 渋沼湿原 12:00…大峠 12:50～13:40…四本木沢 P
 15:10＝観音沼 P16:00、解散

- 下郷町の佐藤淳一氏(会津西街道の地域歴史研究者)から、下郷町や森林組合と共同で会津中街道の大峠から会津側の踏査を行い、古道を確認して刈払いも行ったとの連絡をもらった。福島支部長の渡部氏ら一行と案内してもらうことになり、現地へと向かった。
- 集合場所は下郷町観音沼駐車場 9:00、続々と人が集まりなんと 27 人もの踏査隊となった。福島支部一行はもちろん、下郷町の歴史研究グループ、白河市のグループなどが集まり、この街道への関心の高さが窺えた。それぞれのグループの紹介後、車で四本木沢駐車場(観測所)に移動、ここから踏査開始(9:50)。中峠の石仏を見学し、ここから新たに刈払いした斜面の道を一度下り、林道を横切って、険しい笹やぶの下り道を鎧沢の徒渉へと向かった。この下り道は、笹を刈払ったばかりでスリップしやすく、大変緊張した。参加者は皆さん山慣れしており、どうにか鎧沢まで下ることができた。この先は旧道の踏み跡をたどり、渋沼峠を経て渋沼湿原に到着(12:00)。ここは訪れる人もほとんどいないので、秘境の雰囲気であった。この後は、大峠一里塚を経て大峠へ到着、昼食とした(12:50～13:40)。峠では佐藤氏から会津戦争時の塹壕跡や戦況について話を伺った。帰りは、地図上の登山道をたどり駐車場へと戻った(15:10)。その後、観音沼

駐車場で全員集合し、今後の古道整備の予定などの話を伺って解散となった(16:00)。将来構想としては、会津西街道を安心してトレッキングできる古道として整備し、地域発展のための資源としたい方向性のようなのである。いずれ栃木県側にも働きかけがあるようである。その時には、今回の古道調査の成果として実現に向けて協力していきたいと思う。天気にもめぐまれ、中街道の歴史に触れ充実した踏査であった。佐藤氏と福島支部の方々に感謝。

渋沼湿原にて(福島支部会員とともに)



大峠にて

古道調査(第9回)：西沢金山跡 ～金田峠～湯元温泉

日時：2022年10月27日(木)

場所：日光市 西沢金山跡～金田峠～湯元温泉

参加者：渡邊、菱田

行動概要：西沢金山跡登山口 8:45…ガレ沢通過休憩

9:55～10:00…金田峠周辺調査 10:55～11:30…深山

山之宿跡 11:40～45…刈込湖畔昼食 12:50～13:15

…小峠 13:45…湯元温泉 14:20＝日光湯元ビジタ

ーセンター14:35

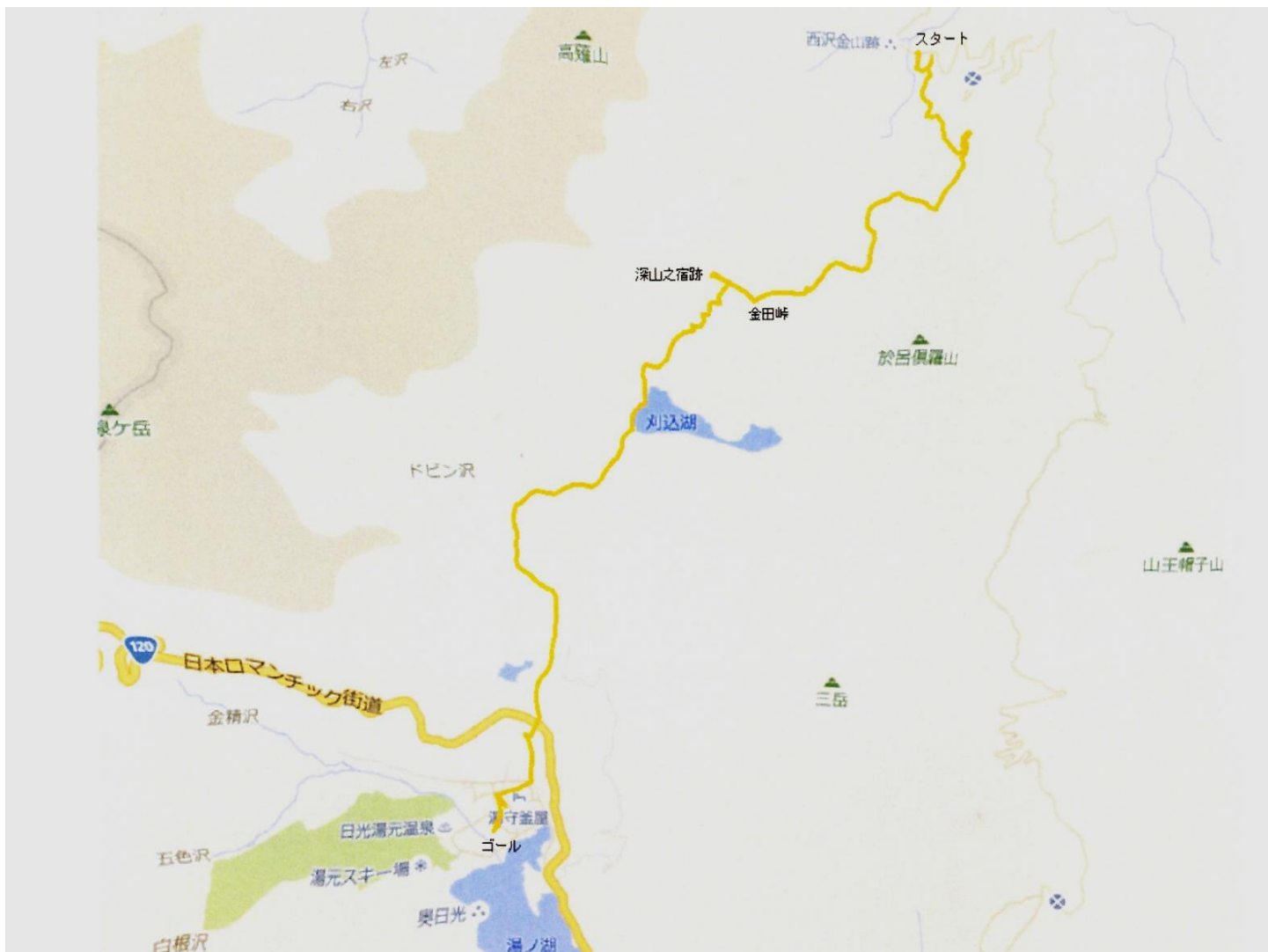
○秋が深まり天候も落ち着いてきたこの日、西沢金山跡から金田峠を経て湯元温泉に至る古道を調査した。ここは、昨年(2021年)に続いて2回目の調査となる。

○日光杉並木公園駐車場に集合し、車2台で日光湯元温泉へ行き、1台を駐車場に置いて、山王峠を越えて西沢金山跡へ行った。西沢は昭和初期まで金鉱石を産出する鉱山町であったとのこと。金山跡の石垣などが残るところを金田峠に向かって登っていった。道は明確のところもあるが、沢を横切るところでは崩落により分かりにくくなっている。峠が近づくと笹が多く、踏み跡なのかケモノ道なのか、ますます分かり

にくい。藪を分け鞍部にたどり着くと、シャクナゲの群落があり、金田峠の標識がある。峠の南側はガレた急斜面で、下降点は少し西に行ったところにある。下降点を下りずに、なだらかな稜線を西に進むと、深山之宿跡がある。ここは日光修験道の地であり、小さな石の祠(金剛堂)がある。残念ながら、仏像や扉はない(日光で確認されているもっとも古い1518年の銅扉が日光市指定文化財となって保管されている)。

○少し戻って、刈込湖に向けて下った。下り始めは2人並んで歩けるくらいの幅のある九十九折の道。しかし、しばらく行くと笹が茂って分かりにくいところもあり、目印を付けながら進んだ。刈込湖畔付近は、全く痕跡はない。刈込湖はハイキングコースながら、紅葉は残り少なく平日ということもあって、我々以外に人はいない。湖畔の砂地にシカの足跡がたくさんあった。

○刈込湖から小峠までは、昨年の調査で古道を辿ったので、今回はハイキング道に戻り、そのまま湯元温泉へ下った。「金田峠への古道を辿る」(西沢金山跡側往復)というイベントを開催する日光湯元ビジターセンターの桑名所長と情報交換した後、車で西沢金山跡へ戻り、解散。





西沢金山跡の石垣



金田峠から日光白根山を望む



深山之宿跡の石の祠



刈込湖へ下る九十九折りの道

◆◆◆会員情報◆◆◆

……………仙石富英会員……………

仙石富英会員が「宇都宮アルプス」の紹介記事を寄稿し、本部会報『山』2022年5月号に掲載されました。ここに転載してご紹介します。

宇都宮アルプス

○宇都宮市北部の篠井(しのい)、富屋(とみや)地区にある標高500mほどの山並みで、宇都宮市民健康ハイキングコースとして整備されてきたが、手軽にできる縦走コースとして「宇都宮アルプス」(篠井富屋連峰)の名称で、県内外からの登山者に親しまれている。北から南に榛名山、男山、本山、飯盛山、高館山、黒戸山、兜山などの山々が連なるが、登山口も数カ所あり、メンバー、行程に合わせた山行が可能である。

○なお、登山適期は、低山のため秋から翌年の初夏にかけてが良い。春先はスギ花粉に注意。

【コースガイド】

○ここでは、登山口の「うつのみや平成記念子どものもり公園」からの7峰縦走コースを紹介するが、一般的な榛名山～飯盛山の周回コースの場合は、公園駐車場に車を置くと便利である。

○JR宇都宮駅から関東バスの日光方面行きに乗り、船生街道入り口の一里塚バス停(日本橋から28番目の一里塚とされる)で下車し、日光街道(国道119号)と離れて船生街道を登山口のうつのみや平成記念子どものもり公園まで約2kmを歩く。公園駐車場からまず榛名山を手始めに男山、コース中の最高峰・本山(562m)を登り、南の高館山、兜山経由で中徳次郎(なかとくじら)登山口へ下るコースを紹介する。

○登山口から園内道路を冒険活動センターへ進み、途中にあるトイレの手前左側の登山道入口から榛名山に向かう。スギ林を進み、林道に出てさらに行くと中篠井登山口からの林道と合流し、涸沢の左脇を稜線まで登り、稜線分岐を右に5分ほどで榛名山山頂である。男体山、女峰山など日光方面の展望が得られる。なお、公園内の冒険活動センター管理棟上部から、最短コースで正面の榛名山を目指すコースもある。

○山頂から来た道に戻り、先ほどの稜線分岐からわずかな登りで小さな岩場のピークの男山山頂だ。北に高原山、東にコース中最高峰の本山が望める。来た道を稜線の道まで戻り、左に下って鞍部からひと登りし、分岐を左に進むと本山山頂である。コース中で一番の360度の展望が楽しめる。本山北面では、元禄年間に金山が開削され、地元「篠井の金堀唄」が伝わっている。

○次の飯盛山へは、再び来た道を分岐まで戻り、左に稜線沿いに下る。下り切った林の中を東に進むと、下篠井登山口(冒険活動センターに出る道でもある)の標識を過ぎ、送電線鉄塔下から急登すると飯盛山山頂である。雑木に囲まれ、展望は良くない。山頂を後に、滑りやすい急な道を下り、大畑林道に出て(林道は上は青嵐峠)左に行く。大畑林道口の標識からスギ林に入り、少し進むと青嵐峠の十字路であるが、昔の道を通る人もなく、分かりにくい。ここを直進し、なだらかな道を登り、大きな岩の下を抜け、先の分岐を左に登ると、高館山山頂だ。平

坦で広いが、展望は良くない。

○黒戸山へは分岐まで戻り、左に進む。黒戸山山頂は稜線上の目立たないピークだ。兜山には山頂から林の中を下り、林道に出たらここを右に進んで送電線の下を過ぎ、左の作業道に入る。大岩の下を巻いて行くと兜山の山頂だ。標高は低いが、樹間から日光方面が望める。下山は林道まで戻り、林道を右に下って行き、中徳次郎登山口に出て、日光街道・徳次郎交差点のすぐ北側にある中徳次郎バス停を目指す。

○なお下山後の見所として、大網登山口付近に二宮尊徳の設計で知られる二宮堰がある。また国道119号・徳次郎交差点を西に、国道293号を行くと、「道の駅うつのみやろまんちっく村」、その先に「石の里大谷」などの観光施設がある。

【コースタイム】

一里塚バス停(30分)子どもの森(1時間)榛名山(15分)男山(20分)本山(1時間)飯盛山(20分)青嵐峠(25分)高館山(25分)黒戸山(20分)兜山(35分)中徳次郎登山口(10分)中徳次郎バス停

【交通アクセス】

往路・復路ともにJR宇都宮駅下車。バスはJR宇都宮駅から船生・塩野室行きも利用できるが、本数が少ない。この場合は篠井学童前で下車、子どものもり公園まで徒歩10分。復路のバスは、中徳次郎バス停で乗車。JR宇都宮駅まで約40分。

【参考文献・問合せ先】

分県登山ガイド『栃木県の山』(山と溪谷社)

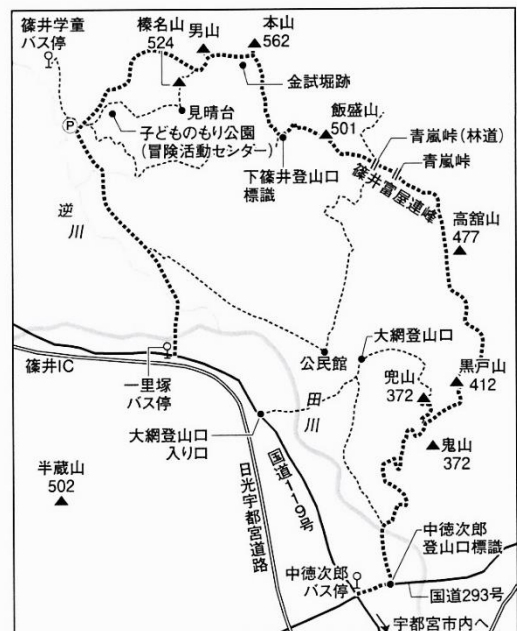
『栃木百名山ガイドブック』改訂新版(下野新聞社)

うつのみや平成記念子どものもり冒険活動センター

TEL: 028-669-2441

【地図】

国土地理院2万5000分の1地形図「下野大沢」「大谷」



……………渡邊雄二支部長……………

新型コロナウイルス感染症は、私どもの生き方・考え方に大きな影響をもたらしています。栃木支部通信の巻頭挨拶は、その時々感染症の現状を踏まえて、支部の活動への展望を如実に述べられていますね。そこで昨年4月以来の挨拶をたどってみたいと思います。

コロナウイルス感染対策が現在一段落の状態ですが、感染者は減少しているわけではなく、第7波の流行が懸念されています。特に、このゴールデンウィークでの人出は大変心配です。コロナウイルス感染症のパンデミックが宣言されて3年目を迎えています。私たちの日常生活は大きく変化しました。支部行事も中止せざるを得なくなったものが多々ありました。この状況を踏まえて、2022年をWithコロナの観点で、感染防止策を行いながら充実したものにしていきたいと思っています。なお、本号にて「令和4年度通常総会、懇親会」の開催についての案内を掲載しますので、よろしくお願いします。【2022年4月号】

5月21日、コンセーレの研修室にて「令和4年度通常総会」を開催しました。コロナ禍の先行きは未だ不透明ですが、感染防止対策をしっかり行って、栃木支部らしい充実したクラブライフを行えるよう頑張っていきたいと思っています。そのさきがけとして、総会終了後に活動報告会を開催しました。支部の活動や会員の活動を一堂に会してスライドを交えての報告は、会員同士の情報交換にも役立ち、刺激的で大変有意義な企画だったと思います。今後も事あるごとに継続していきたいと思っています。その後の懇親会では、これから各自が目指す山登りなどの話題でにぎやかに開催されました。コロナ禍で自粛していたので、久しぶりの懇親会は、やっぱり楽しいものになりました。また、昨年は発行を控えた「支部報14・15合併号」を総会の席上で配布することができました。大変多忙の中、KMJM委員のご尽力によるもので感謝です。2年間の活動の概要や会員の寄稿もあり楽しく拝読です。坂口、小島両氏への追悼文集は、後日別冊にて作成配布する予定です。今号では、総会の報告や当面の行事の案内を掲載しました。会員の積極的な参加を待っています。【2022年6月号】

支部報14・15合併号の別冊である「追悼特集」をお届けします。この特集も大変多忙の中、KMJM委員のご尽力によるもので感謝です。坂口、小島両氏の在りし日の姿を偲んでいただければありがたいです。この追悼文集の準備中に、残念な知らせが届きました。5月12日に本支部委員の山本武志会員が急逝されました。当日は、仕事から自宅に帰り夕食中に倒れられたそうです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。今号では、6月以降に実施した行事の報告と今後予定されている行事等をお知らせします。会員皆さんの積極的な参加をお待ちしています。【2022年7月号】

夏の本支部の公益事業(社会貢献事業)である「第10回親子登山教室」は、準備万端整えて当日(7月23日)の好天を祈るばかりでしたが、コロナ感染の第7波の襲来でやむを得ず中止にせざるを得ませんでした。特に第7波は子どもたちに感染が広まっているということが特徴的であることが理由です。ここでは、「下見山行」の報告をします。秋山山行を磐梯山、西吾妻方面、裏磐梯温泉泊で計画中です。11月5日・6日に予定しています。日本の登山界の重鎮であった「坂口三郎氏とのお別れ会」の準備を実行委員会を進めています。11月3日(祝)にコンセーレで予定します。秋山山行の案内とともに次号の支部通信10月号で案内しますので、是非ご予定ください。今号では、7月以降に実施した行事の報告と今後予定されている行事等をお知らせします。会員皆さんの積極的な参加をお待ちしています。【2022年9月号】

日本の登山界の重鎮であった「坂口三郎氏とのお別れ会」の案内を同封しました。一年前の突然の訃報でした。氏の思い出を語りながら、在りし日のお姿を偲びたいと思います。秋山山行を渡部福島支部長のアドバイスで磐梯山、西吾妻方面で計画しました。11月5日～6日です。雪の便りも届く時期かと思えます。晩秋の会津の山旅に是非参加ください。コロナ禍がなかなか治まりませんが、本支部の行事も順調に行われています。今後予定される行事への参加をお待ちしています。是非、栃木支部のクラブライフを楽しんでください。【2022年10月号】

コロナ禍の中での年末年始をいかがお過ごしでしょうか。2020年1月15日に日本での最初のコロナ感染者が確認されて以来、丸3年の年月が経ちました。この3年間はこれまでに経験したことのない状況が始まり、更にはウクライナでの戦争も始まってしまい、毎日が混乱の日々であったと言っても過言ではないと思います。このような状況下でも本支部の活動は、役員各位のご尽力により本年4月からどうにか軌道に乗せることができました。しかしながら、この3年間の自粛の動きは、世の中の風潮や本支部会員の高齢化も伴って、支部活動にとっては大きなインパクトになってしまったことは否めません。マイナス思考ではクラブ活動は面白くも楽しくもありません。プラス思考で支部のクラブライフを今以上に楽しめるように、会員の皆さんと一緒に活動していきたいと思っています。冬山山行・新年会の案内を同封しました。是非ご参加していただき、今後の活動について意見の交換(交歓)をしたいと思っています。会員各位の参加をお待ちしています。【2022年12月号】

令和5年が始まりました。本年も引き続きよろしく申し上げます。1月末には、バックカントリースキーヤーが各地で雪崩事故に遭い、不幸なニュースが駆け巡りました。山岳遭難事故のたびに、メディアは「とんでもないルール違反者」として、批判的に行っています。登山やバックカントリースキーは自然の中で行う行為ですので、冒険性と安全性の二つの願望が動機になって行われる行動です。冒険性にはリスクが伴いますが能動的・探究的であり、その中に創造性の価値あるものです。安全性は、冒険性に比べて控えめな性格ですが、その裏付けは訓練を積み重ねる筋道が大切であることを意味します。訓練によって適応性が向上し、それまで不可能であったことが可能になり、高みへのステップを踏むことができます。この訓練を積み重ねることが冒険性の価値を裏付けるものと言えます。メディアには、このことにもっと注目するような報道が望まれます。冬山山行と新年会の支部行事で新しい年の活動が再開されました。今年度の行事はあと二つ、「山の講演会」と「ヒマラヤの集い」です。どちらも公開している事業ですので、岳友をお誘いの上是非ご参加ください。マスターズの山行も月に一度の割合で継続しています。栃木コースの活動も、働き盛りの会員が多忙の中でクラブライフを楽しんでいます。栃木県「山の日」協議会の講演会が開催の運びとなりました。栃木支部はこの講演会の企画立案、当日の役割など大きくかかわりを持っています。本県の登山の活性化と安全の確保、そして岳人同志の交流のためにも是非ご参加下さい。コロナは相変わらず感染状況が減少しませんが、人々の対応能力は向上しています。社会全体の対応も改善に向かっています。栃木支部の活動も地道に前進させていきましょう。登山は、初歩的な山歩きから、急峻な高峰への登山、岩登りや豪雪の中での冬山登山など多種多様です。年齢や自分の経験によって、それなりの登山を楽しむことができます。それぞれみな立派な登山者です。その動機は冒険性と安全性であることを忘れてはならないでしょう。【2023年2月号】

栃木県「山の日」協議会の講演会を予定通り開催することができました。平成29年8月に第2回「山の日」記念全国大会が栃木県で開催されましたが、その後の本県の「山の日」協議会の活動は県民にはなかなか定着せず、また、コロナ禍もあってこのところの活動は低迷と言わざるを得ない状況でした。このような状況を何とかしたいと、石澤会長(本支部副支部長)らと協議を続け、今回の講演会とシンポジウムを開催することができました。講演は、久保田賢治氏が「コロナ禍での登山の状況と今後の課題」と題し、現状分析と問題点を明らかにしました。それを受けて、久保田氏も参加して、石澤会長がファシリテーター役でシンポジウムを行いました。パネリストは総勢6名、登山者の代表として本支部の仲島会員が登壇し、自らの経験から貴重な意見をいただきました。シンポジウムは、コロナ禍で表面化した山小屋、登山道、単独登山者に関する諸問題に関して意見交換がなされ、有意義な会となりました。本支部としては、本県の「山の日」協議会に積極的に関与して、本来の「山の日」が祝日として定着し、県民の皆さんが「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」機運を醸成できるよう、今後とも活動していきたいと思っています。【2023年3月号】

同じく支部通信中には、渡邊支部長が若き日の憧れを懐いた劔岳に関する文章がありました。また全国山岳遭難対策協議会の報告もありましたので、ここに再掲します。

時の話題 「劔岳山開き・鎮魂祭」について

支部通信 6 月号では、「高原山開き」の話題を提供しました。今号では、北アルプスの名峰「劔岳」の山開き・鎮魂祭についての話題をお知らせします。劔岳は、私にとっては正に「試練と憧れ」の場であり、学生時代から足繁く通った山です。北アルプスの中でも別格の存在で「岩と雪の殿堂」で、春夏秋冬、この山で鍛えられました。苦渋を舐めた長期の真砂沢での定着合宿、長大な北方稜線の縦走、冬の岩壁の登攀など思い出は枚挙に暇がありません。故坂口三郎さんと一緒に劔沢や立山川をスキーで滑降したこともありました。その時には、坂口さんは登山靴に山スキーという格好で、素晴らしい滑りでした。私はその当時は兼用靴でしたのでスキー操作は登山靴に比べれば格段に操作しやすかったので、坂口さんの滑りに大いに感心したものでした。「劔岳山開き・鎮魂祭」は、毎年 6 月 1 日に富山県上市町の登山口である馬場島で行われます。馬場島には、岳人が集う山荘や山岳警備隊の派出所がありますので、古くからの岳友や旧知の山岳警備隊員との出会いの場でもあります。私は 20 年以上も欠かさず毎年この行事に参加していますので、登山者の変化や登山界の変容をこの行事を通して肌で感じてきました。「鎮魂祭」を兼ねておりますので、前年に劔岳で遭難されたご遺族も参列していただいておりますので、事故の悲惨さを改めて感じる時でもあります。これまで行事の締めくくりは長いこと伝統的な「伊折の獅子舞」が奉納されていましたが、担い手が高齢化したため、数年前から中止になってしまいました。その代わりに、地元の方が「劔の歌」を披露する催しになりましたが、これもまた高齢化のため中止と相成りました。伝統的な行事が次々と消えていくのは寂しい限りです。集まってくる方々も同様に毎年一つずつ年を重ねておりますので、このような行事に若者の積極的な参加が望まれます。例年、梅雨時に行われるので小雨模様が多いのですが、今年は、山麓から劔岳の雄姿が遠望できる晴天に恵まれました。しかしながら、なぜか毛虫が大量に発生していて、歩く度に毛虫をよけなければならない状況でした。これも、気候変動の現われかと話題になった次第です。【2022 年 7 月号】

時の話題 全国山岳遭難対策協議会について

2022 年全国山岳遭難対策協議会がされました。7 月 15 日(金)文部科学省講堂において、ハイブリッド方式で開催された。会場参加者は約 100 名、オンライン参加者は約 600 名でした。午前の部は、例年通りの山岳遭難の状況の報告があり、午後は、YAMAP の小野寺氏による「登山者ビックデータから導く道迷い遭難ゼロへの道」、日本山岳救助機構の久保田賢次氏による「道迷いと登山道整備」等の講演がおこなわれた。その後、静岡大学の村越真氏のコーディネートにより、演者が登壇してのパネルディスカッションが行われた。IT に依るビックデータの活用、登山道整備の現状など大変参考になる情報を得ることができた協議会であった。これらの課題は、栃木県山の日協議会でも話題になっており、講演会なども企画したが、コロナ禍のために中止になった経緯がある。コロナ禍が収束の方向に向いたら、本県でも是非講演会などを企画したい。なお、11 月 23 日には国立登山研修所友の会主催でこれらの内容を含めた研究会を東京の成蹊大学で予定しています。参加無料ですので、次号でお知らせします。【2022 年 9 月号】



◇◇◇栃木支部会員◇◇◇

No.	番号	氏名	備考
1	4633	山野井 武夫	顧問
2	6956	井上 孝郎	
3	7914	渡邊 雄二	支部長、兼事務局長
4	8282	上野川 孝一	
5	8383	前田 洋子	
6	8386	牛窪 光政	会計監事
7	8432	前田 文彦	
8	9265	石沢 好文	副支部長
9	10459	仙石 富英	委員
10	10885	蓮實 淳夫	
11	11381	関根 和男	
12	11621	高野 正道	
13	12466	長 百合子	
14	12503	菱田 克彦	委員
15	13600	永谷 義篤	
16	14419	斎藤 隆	
17	14438	神島 仁誓	委員
18	14483	東 和之	
19	14510	桑野 正光	会計監事
20	14518	猿山 浩	委員
21	14527	稲葉 昌弘	委員
22	14529	麦倉 常治	委員
23	14536	後藤 尚	委員
24	14626	内間 茂	
25	14650	早川 和子	
26	14656	石井 シモ子	
27	14667	増淵 仁一	委員
28	14679	仲島 正子	委員
29	15212	深谷 篤志	委員
30	15382	深谷 優子	
31	15384	君島 敏明	
32	15456	青山 孝雄	
33	15625	村田 美代	
34	16048	坂口 直孝	
35	16405	荒井 理	委員
36	16434	鬼頭 秀夫	
37	16459	大島 健一	
38	9168	浅川 とみ子	
39	16532	吉澤 順一	
40	16671	山口 剛	
41	16705	水野 雅章	
42	16822	林 祐寿	委員
43	17083	早川 誠次	

【2023(令和5)年5月16日現在】

事務局より

- 私事ですが……「関西は味付けがうすいと聞いていたのに、喉がひりひりするほど塩辛いな」これが京都で4月5日(水)に蕎麦を食べた時に感じたことでした。実は私どもの本山・東本願寺で大きな法要が3月末から4月末にかけて勤修されるので、東京教区から上山された方々の団体参拝誘導業務で京都に滞在した時のことでした。6日(木)と7日(金)にはその業務につくことになっていましたが、体調が思わしくなく、休んでいたほうが良いとの勧めでホテルでベッドに伏せておりました。8日(土)までの滞在予定でしたが、悪化して帰れなくなるのではと思ひ、予定を早めて7日(金)に帰宅しました。
- そして早速、友人の医者ところで診てもらったら「感染してるぞ。発症日は3日(月)だから10日(月)まで自宅療養」と言い渡されました。
- 思い返してみると、京都に出かける前夜【4日(火)】の食事も、家族は美味しそうに食べているのに、私には塩辛く感じられて大部分残してしまっていました。そうです、味覚障害がもう始まっていたのですね。
- そこでいつ何処で感染したのかと考えてみました。おそらく2日(日)に行われた帝国ホテルの250人が参加したパーティの会場ではないかな???実は懇意にしている嘶家・古今亭志ん雀(二つ目までは志ん吉)の真打昇進披露宴があって出かけたのですが、大勢の参加者と呑んで語り、楽しい時間を過ごしました。でもその代償としていただいていたのではと……。
- 他の症状としては、熱は38.3℃になりましたが、一時だけでその後は平熱近くに下がりました。但し喉が痛いのと、咳や痰には閉口しました。これも処方してもらった薬を飲むと軽減され、味覚障害もすぐに消えていきました。
- 軽症で済んだので言えることかも知れませんが、罹患してみると、あらためてわかることってあるものですね。感染症の行政の対応とか、周囲の方々の気持ちとか!!何よりも家族のいたわりとか??……。
- さて多くの方のご協力により第16号発行にこぎつけました。
- いつものお願いです。事業が終了しましたら報告書を作成されることかと存じますが、報告書と写真等を必ずメールにて送信いただきますようお願いいたします。当方のメールアドレスです。



kami-jin@sepia.plala.or.jp